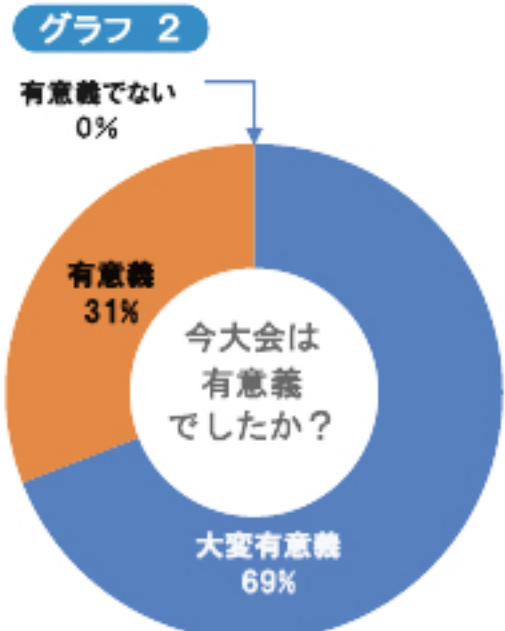
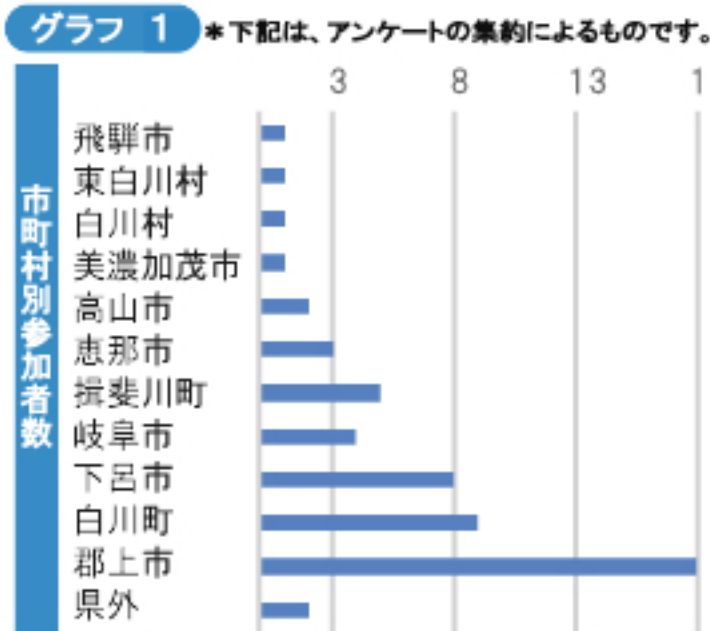


参加者の声

日々の活動にいかす
来年の大会につなぐ

第8回グリーン・ツーリズムネットワーク大会 in 郡上明宝を終えて

第8回大会の参加者数は、2日間のべ141名。20〜30代と40代、50〜60以上の比率がほぼ同じという、パランスのとれた大会でした。実践団体の方々がほぼ半数を占め、行政職員の方々が4分の1、残りの4分の1には、旅行関係者、地域おこし協力隊、農業団体、観光協会など、バリエーションに富んだ方々が参加してくださいました。



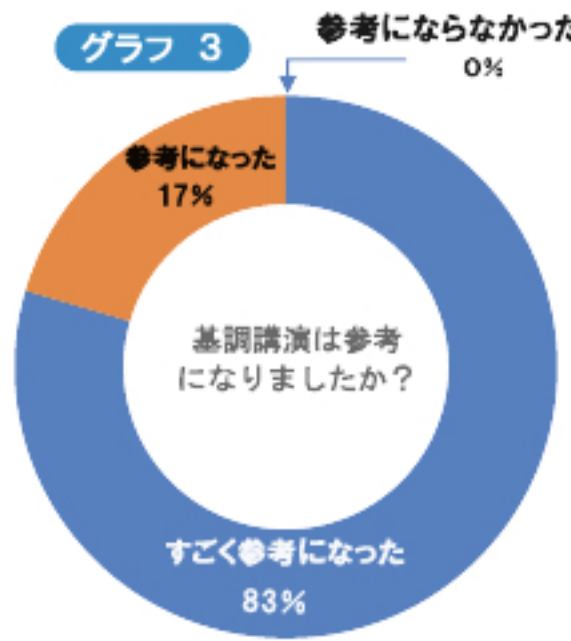
また、今大会の評価は、約70%の方が「大変有意義」と答え、「自分の所属する活動団体に生かすことができる気づきがあった。」「自分自身の立ち位置、活動の方向性のヒントをもらいました。これから新しいつながり、動きが始まりそうまでワクワクします。」「企画から運営まで素晴らしいと思いました。手作り感いっ

■大会に素晴らしい声!

「観光(交流)⇄移住(定住)の中間として関係人口の考え方は非常に興味深く、今後に活かそう。」「参考になりすぎた。昨日さっそくTELして市職員へPRする時間も作った。」「移住者として関係人口と地域の橋渡しの役割を果たしたいと思いました。」「など、勢いを感じる声をたくさんいただきました。」

■関係人口にたくさんさんの共感!

特に基調講演に登壇された田中輝美さんのお話は、「関係人口」という新しいアプローチで都市と農山村をつなぐ視点が、参加者の方々にたくさんさんの学びと気づきを与え、共感の輪が会場全体に広がりました。



数で密度の濃い話し合いが展開されました。

■特徴あふれる3つの講座

第1ワークショップ&フィールドワークは、「移住・定住」です。参加者の方々から「石徹白という小さな



ワークショップとフィールドワークは、明宝の民宿・旅館に分かれて3つの講座が実施されました。

| 講座 | 参加者数 | 役に立った割合 |
|-----------|------|---------|
| ① 移住・定住講座 | 19名 | 100% |
| ② インバウンド | 28名 | 100% |
| ③ 郷土食講座 | 26名 | 100% |
| フィールドワーク | 23名 | 100% |

フィールドワーク、ワークショップ、フィールドワーク、ワークショップ、フィールドワーク、ワークショップ

事務局だより information

寒くなりましたね、いかがお過ごしですか?事務局は、大会が終わって少しホッとしているところです。懐かしいみなさんの顔、フレッシュな新人さんの顔……、大会でお会いしたみなさんの笑顔をお忘れず、来年もがんばりま〜す!

「ぎふの田舎へいこう!」推進協議会

〒501-4307 岐阜県郡上市明宝二間手 606-1 郡上市役所明宝庁舎内

- TEL:0575-87-0128
- FAX:0575-87-0131
- E-mail: gifuina@gmail.com
- HP: https://gifu-inaka.jp



貝原棚田のある揖斐川町春日地区の薬草を持つ参加者

「ハーブを使った入浴剤」作りを体験しました。坂折棚田では、棚田散策のあと五平餅づくりを

岐阜県の美しい棚田を紹介する「棚田体感バスツアー」が、11月に実施されました。名古屋駅から出発する日帰りのバスツアーで、11月3日には揖斐川町にある「貝原棚田」、11月10日には恵那市にある「坂折棚田」に行きました。

棚田バスツアーを実施しました。



坂折棚田を散策する参加者

外国人は どう見るか?

外国人のみなさんにとって、日本の棚田は魅力的なのか?外国人観光客を受け入れるとき、気をつけることは?

そんな課題を持ちながら、岐阜大学の留学生のみなさんにご協力いただき、「日本の棚田見学」ツアーを実施しました。当日は8人(中国、ドイツ、インドネシア、インド)の留学生のみなさん



おにぎり作り体験の様子

外国人のみなさんにとってもありましたが、無事笑顔いっぱい1日になりました。

体験し、昼食後には「半分青い」のロケ地だった岩村を訪れました。2日とも好天に恵まれ最高の行楽日和で、参加者のみなさんも大満足の1日でした。



稲の説明を受ける留学生たち